

堂 谷 津 の 里 か ら

堂谷津の里は、5月27日の一般参加の方と会員による田植えに始まり、6月4日には「親子で米づくりと自然の体験」の田植えが続き、6月17日のちびっこ田植えを最後にすべての田植えを終了しました。5月初めにすべての田で水が無くなり、田植えも危ぶまれましたが、今回寄稿して頂いた千葉県環境研究センターの風岡修氏の願いが通じたのか、その後、降雨が続き、水を湛えた田での田植えができました。寄稿では田の水が涸れる背景が述べられています。なお、6月13日には総会が開催され、2022年度事業報告、決算報告が承認されました。

【田んぼでは】



一般参加者・会員による田植え



親子体験各家族の田で田植え



ちびっこ田植え

寄稿

gama原・ミニ田周辺の水田土壌層内の地下水の動き その2

千葉県環境研究センター 風岡 修

2022年2月に発行されましたニュースレターNo.12に掲載いただいたgama原・ミニ田周辺の水田土壌層内に設置された井戸(図1)における地下水の観測(図2・3)は2021年より継続しています。大局的にみると、2021年2月～6月には地下水位はやや低かったものの、2021年7月～2022年8月の間は高い状態が維持されていました。しかし、2022年9月以降は徐々に水位が低下していき2023年4月には観測以来最低の値となっています。図4は佐倉に設置された気象庁のアメダス観測点による2018年1月～2023年3月の月別降水量です。この観測を始める前の2019年春には湧水が枯れ、水田耕作に大きな影響を及ぼしたとのこと。この時は、2018年10月以降は月降水量が60mm未満が2019年2月まで続き、3月～5月も100mm程度の降水量しかありませんでした。

地下水観測を開始し、2020年の初頭には、この水田土壌層を水がめにして、湧水が少なくなっても水田に流入する水を確保する取り組みとして、バランス21のメンバーにより図1のような土水路がgama原-ミニ田周辺において掘られました。この取り組みと降雨のため、2021年7月～2022年8月の間は地下水位が高く維持されていました。しかし、2022年10月以降は100mm未満の降水量が続き、特に2018年秋から2019年春の時のように少雨傾向が続き、地下水位が低下しているものと思われます。

ニュースレターNo.12では、地下水位が低下している時は地下水は北東方向に流れている

ことがわかり、この原因の一つとして、谷津田の南側から湧水が多く供給されていることが考えられたこともあり、ミニ田周辺の土水路に加え、ミニ田～上の田の間では谷津の南側からの湧水を谷津の北側の水路へ導く水路づくりが行われたことなどもあり、今のところ上の田などの水田には水が途切れることなく供給されています。今後の降雨に期待するところです。

また、ニュースレターNo.12で示した地下水の流動方向の変化として、地下水位が低下するとなぜ、北東方向へ地下水が流れるようになるのかについて調べていき、水田土壌層の水がめとしての効果が維持できる方法について考えていきたいと思えます。



図1 ガマ原—ミニ田周辺の水田土壌層に設置された井戸位置

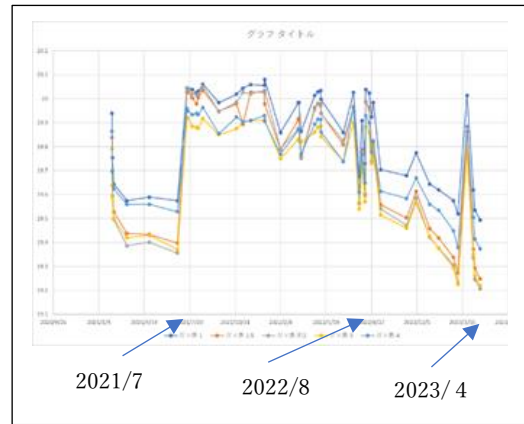


図2 ガマ原の水田土壌層中(深度0~80cm)の地下水位の変化

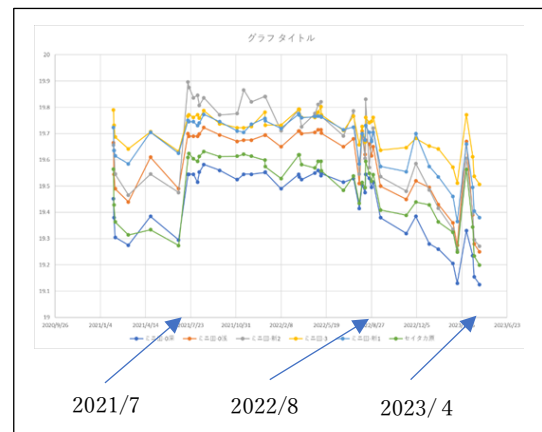


図3 ミニ田周辺の水田土壌環境中(0~80cm)の地下水位の変化

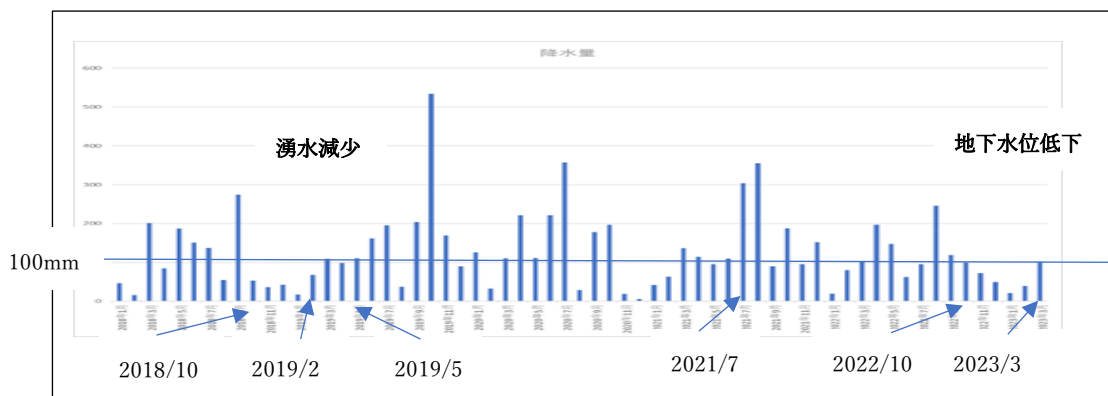


図4 佐倉に設置された気象庁アメダス観測点での月別降水量

<情報コーナー>

今年ほどのくらいのホタルに出会うことができるでしょうか。7月29日(土)にホタル観賞会を開催します。その他、7月1日(土)は里山開放日、7月15日(土)は「親子で米づくりと自然の体験」を開催します。総会資料も含め、ホームページをご参照下さい。

※寄稿文、図の無断転載禁止

NPO 法人バランス 21

E-mail:yatosatoyama@gmail.com

URL :https://balance21.jimdo.com/

連絡先：千葉県若葉区谷当町 70

TEL&FAX:043-239-0645 (現地)